

帝国データバンクが26日発表した「全国社長分析」によると、昨年末時点の全国の社長の平均年齢は59・2歳で過去最高を更新した。後継者不足などから昨年に社長交代があった企業は全体の3・88%と低水準にとどまり、地方の中小企業を中心に高齢化が進んだ。

平均年齢は1990年以降上昇が続いており、直近10年で1・5歳高く

民間調べ 地方の中小、進む高齢化

昨年末の社長平均年齢

59.2歳

なった。企業の売上高規模別で見ると「1千億円以上」が前年比0・2歳

高い60・9歳とトップだ。前年比では0・3

歳低い「500億～1千億円未満」を除く全ての規模で上昇か横ばいとなった。

業種別では「貸事務所業」など不動産業で平均

た。都道府県別では61・3歳でトップだった岩手県など東北の企業で社長の高齢化が顕著だった。経営者は業績が改善し

ている時の方が後継者にバトンを渡しやすいつとされる。

08年のリーマン・ショック以降、低下傾向だった社長の交代率は、円安の進行などによる企業業績の回復を受けて上昇傾向が続いている。